

おらみネット

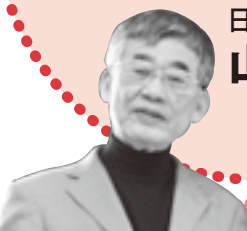
●発行日 / 2013年3月19日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

feature articles 特集①

淡海ネットワークセンター
15周年記念講演

地域のニーズに 応えるための知恵と 力とNPOの責任

日本NPOセンター顧問
山岡義典さん



1

NPOのIT活用術
NPO法人マイママ・セラピー

6

株式会社水ロススポーツセンター
ウエル・ビ

5

世間よし〜企業の社会貢献〜

ともに支える社会のために

特集★OHMI視点①
淡海ネットワークセンター記念講演
よりよい滋賀を

元気印NPO①

子どもたちに、描く楽しみ、
つくる喜びを

教育

アート探検隊
ピカソ・スイッチ

6

feature articles 特集②

未来ファンドおうみ
フォーム講演

「はやぶさを産んだ文化と これからの日本」

宇宙航空研究開発機構
JAXA 名誉教授
的川泰宣さん



3

淡海ネットワークセンター十五周年記念講演

よりよい滋賀をともに支える社会のために

地域の課題を自ら解決しようとする市民を支え、市民、企業、行政など多様な主体が広くつながること、よりよい地域づくりをめざす淡海ネットワークセンターは、設立十五年を迎えました。よりよい滋賀を一人ひとりの市民が主役として市民社会に関わり支える社会のために、多様な主体とともに担うべき役割について、日本NPOセンター顧問、山岡義典氏にご講演いただきました。

記念講演

地域のニーズに応えるための知恵と力とNPOの責任

日本NPOセンター顧問 市民社会創造ファンド運営委員長

山岡 義典(やまおか よしのり)さん

◆日時 2013年1月14日(月・祝)
9:30~11:30
◆会場 ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)大会議室

淡海ネットワークセンターが設立

された一九九七年から現在までに、公益概念の大きな転換がありました。一度目は一九九八年、特定非営利活動促進法(NPO法)が誕生したこと。これにより、明治以来百年続いた従来の「公益は国家に役立つこと」という概念とともに「公益とは市民の自由な社会貢献活動の広がり」という概念が生まれました。次に十年後の二〇〇八年、民法の改正によって従来の「国家に役立つこと」は廃止され、公益認定法により「民間による公益活動の重要性」が確立し、市民公益と民間公益が新しい公益概念として認められるようになりました。

そのような背景の中で、「地域のニーズに応えるための知恵と力」と

地域のニーズに応えるための知恵と力 基本的な知恵と力とは

- ・地域のニーズを認識する知恵と力
気付け/言語化する/分析する/他
- ・地域のニーズに応える知恵と力
企画構想する/呼びかける/行動する/人を組織化する/資金を確保する/他
- ・地域の人々の参加を促す知恵と力
⇒皆さんで考えてください
- ・地域の組織と協働するための知恵と力
⇒皆さんで考えてください

いうことについてお話しします。NPOに必要な知恵と力の一つ目は「地域のニーズを認識することです。不登校の子どものための「フリースクール」や、高齢者のための「老人給食」など、新しいサービスの必要

協働はなぜ必要か

- ・社会的課題の解決や新しい価値の創造のためには、従来の各組織のリソース(人・物・金・情報・仕組)だけでできることには限界があるから。
 - ・政府にできることの限界—公平性の原理
 - ・市場にできることの限界—競争性の原理
 - ・市民にできることの限界—自発性の原理
- ⇒それぞれの取り組みを大事にするとともに、それぞれの限界を超えて協働の取り組みを

性に気づき、そのイメージを言葉にすることで人々に伝える。そして、実現のために何が必要かを分析します。こうした知恵と力がベースとなります。二つ目は「地域のニーズに応える」こと。企画構想をし、周りの人に呼びかけ、行動し、組織化していく。そして資金を確保する。三つ目は「地域の人々の参加を促す」。最初は仲間だけの活動でもいいのですが、より多くの参加があるかどうかで、そのNPOの発展が決まります。

す。そして四つ目は「地域の組織と協働すること」です。

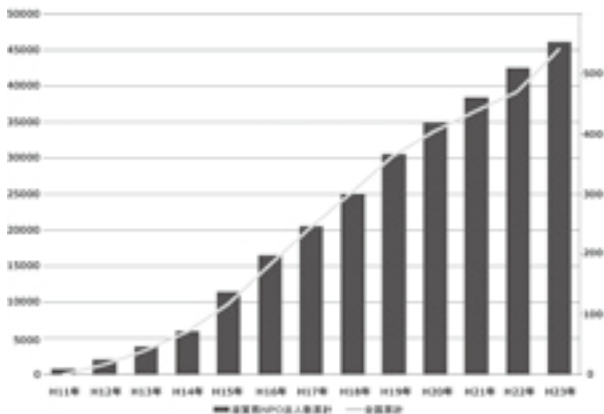
ところで、「参加」と「協働」の意味については誤解があります。協働とは、異種・異質の組織同士が一緒に取り組むということ。NPOと企業のような本来は別の組織が、共通の社会的な目的を果たすため、それぞれのリソースを持ち寄ることが「協働」で、「一方、「参加」とは個人が責任をもって組織の企画や活動にかかわること、よりよいものにする」と、私は定義しています。協働のためには対話が、そして参加のためには学習が必要です。そのいずれのためにも、情報公開が必要になります。

では、なぜ協働が必要なのか。それは、社会的課題の解決や新しい価値の創造のためには、従来の組織のリソースだけでは限界があるからです。政府には公平でなければならぬという限界があります。企業は市場の競争に勝たなければいけないという限界があります。そして市民には、やろうと思う人や寄付がなければサービスが提供できない、という限界があるのです。こうした、それぞれの限界を超えて協働の取り組みを行うことで、社会的に大きな力になるといえることが言えます。

地域のニーズに応えるためにも、特に必要なのは、NPOの組織基盤

よりよい滋賀を ともに支える社会のために

滋賀県、全国のNPO 法人数の推移



滋賀県のNPO法人は現在約600法人となりました。「市民活動」、「NPO法人」という言葉が市民にとって身近になったのを感じます。地域の身近なところで、きめ細かなサービスを提供する市民活動団体やNPO法人が増え、生活や地域社会の公的な支えを担ってきています。

しかし、多様な地域課題や市民ニーズに応えようと活動している市民活動の現場では、課題もあります。昨年のNPO法人へのアンケート調査では

- ①活動資金への不安を抱えている
- ②活動を継続するための人材育成が不十分
- ③活動についての情報発信が弱く、活動への理解が広がらない

などがあげられてきました。

一方、社会課題は、格差社会の広がり、エネルギー問題、子どもの健全育成、少子高齢化、過疎など複雑になってきています。行政だけで、自治会だけで、教育機関だけで、市民活動だけで解決できるものではありません。

市民も行政も教育機関も企業も自治会などの地縁組織も地域課題にそれぞれに取り組む市民活動も、総てが協調して、課題を認識し、それぞれの視点、資源、特徴を活かして取り組まないと、越えられない時代になってきています。

淡海ネットワークセンターでは、地域課題に取り組む多様な主体のネットワークを進め、民が民を支えるお金の循環をつくる「未来ファンドおうみ」をベースに、市民の信頼を得て、市民の参加と支えによって維持される市民活動が増えるように、*認定NPO法人制度などへの理解を拡げていきたいと思っています。

*認定NPO法人制度とは、適正な運営の実態と、より多くの市民から寄付で支えられているNPO法人であると所轄庁が認定するものです。

PROFILE

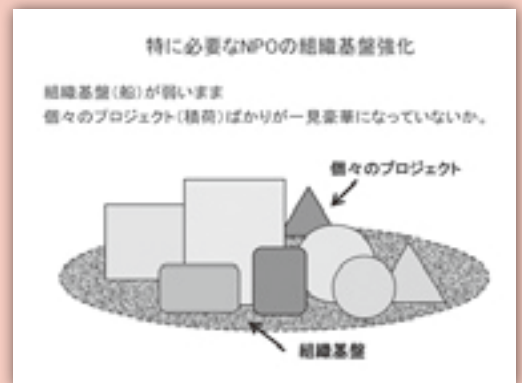
●プロフィール●



山岡 義典(せきぐち ひろあき)さん

1941年生まれ。大学で建築を学び、大学院で都市計画につき研究後、都市計画家、トヨタ財団プログラム・オフィサー、フリーを経て1996年、日本NPOセンターを設立、事務局長・常務理事に(副代表理事を経て2008年代表理事、2012年退任、顧問)。2001年、法政大学現代福祉学部教授(2012年退職)。2002年、市民社会創造ファンドを設立、運営委員長に。

の強化です。日本のNPOは、個々のプロジェクトという積み荷はこの



十数年で立派になりましたが、それを乗せる船、つまり組織基盤が弱いままで。市民セクターは、人件費を含む運営費の確保をはじめとした組織基盤をしっかりと築くことが重要だと思っています。

地域社会に対して、NPOは潜在的な社会的ニーズを発見・発掘するという責任を持っています。そのため、協働自体は責任ではありません。別に協働しなくてもいいし、すべてのNPOが協働できるわけでもありません。協働できる場所は、責任を果

地域社会に対するNPOの責任とは

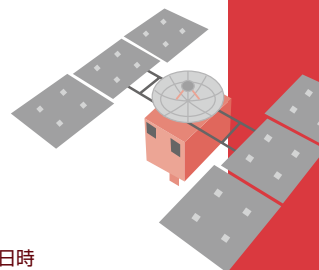
1. 常に市民的立場(所属の利害を離れた立場)で、潜在的な社会的ニーズを発掘・発見すること。
2. 常識にとらわれず(失敗を恐れず)、発掘・発見した社会的ニーズへの新たな取り組みに心がけること。
3. その取り組みは地域の人々に開かれたもので、その幅広い参加を可能にすること。
4. 情報発信に努め、その活動や会計の透明性を確保すること。

⇒人々を巻き込みながら地域社会を起動させる責任

たす自負として取り組んでほしいと思います。

未来ファンドおうみフォーラム

「子どもたちに伝えたい 未来、勇気、ささえあう心」



◆日時
2013年2月11日(月・祝)
13:00~17:00

◆会場
ピアザ淡海(滋賀県立県民
交流センター)大会議室

◆講演
はやぶさを産んだ文化と
これからの日本

宇宙航空研究開発機構 JAXA 名誉教授
認定NPO法人子ども・宇宙・
未来の会 会長

的川泰宣さん

的川 泰宣(まのがわ やすのり)さん

宇宙航空研究開発機構 JAXA 名誉教授。ミューロケットの改良、数々の科学衛星の誕生に活躍し、1980年代ハレー彗星探査計画の中心的メンバーとして尽力。2005年には、JAXA 宇宙教育センターを先導して設立、初代センター長となる。2008年6月、NPO法人子ども・宇宙・未来の会(KU-MA、クーマ)を設立、会長となる。日本の宇宙活動の「語り部」であり、「宇宙教育の父」とも呼ばれる。

今年も滋賀県新しい公共支援事業受託事業として、寄付でささえあう社会をめざす未来ファンドおうみフォーラムを開催しました。宇宙開発を推進し、また子どもたちに「いのち」への愛情を育む宇宙学校を各地で開催する認定NPO法人子ども・宇宙・未来の会を設立された的川泰宣さんに講演いただきました。会場では二十四の市民活動団体がポスター展示し、来場者に活動紹介をしました。市民が寄付について考え、寄付で支え合う社会への参加のきっかけになるフォーラムとなりました。

いろいろなタイプの人が 協力し合って出来た「はやぶさ」

日本の宇宙開発は一九五五年、糸川英夫先生が日本で最初のロケットチームを立ち上げたときに幕を開けました。当時日本は敗戦後のどん底、国民全体が自信喪失状態でした。糸川先生は「みんなを元気づける大きな目標を作って、みんなでその目標を追いながら元気になるうじゃないか」と檄を飛ばしました。こうして、宇宙開発の第一歩がスタートしました。

宇宙の歴史は一三七億年といわれています。その長さを一年に縮めると、ビッグバンが起きたのが一月一日、太陽系の誕生は八月三十一日、生命の誕生は九月になります。特に重要なのが、どのようにして地球が出来たのかということ。それを探る

のが、二〇〇三年に打ち上げられた小惑星探査機はやぶさの仕事でした。

はやぶさに携わっている人の中には、「太陽系の誕生について知りたくてたまらない」という人もいれば、「そんなことはどうでもいい。でも機械を作るのは大好き」という人もいました。いろいろなタイプの人が協力し合ってできたのが、はやぶさです。

はやぶさは、地球から三億キロメートル彼方にある、糸川先生にちなんで名付けられた小惑星「イトカワ」を目指しました。

これなら情熱を注げる、 という確信がチームを強くする

三億キロメートル先のはやぶさに、電波が届くには十七分弱かかり



ます。何か
が起こつて
「危ない」と避
けようとして
も間に合いません。
そのため、
あらかじめコン
ピュータにいろ
んな命令を覚え
させておき、状
況に応じて指令

を出す仕組みになっています。想定外のことが起こったときには我々が介入し、コンピュータのプログラムを書き換えて対処しました。イトカワに到着するまでは順調でしたが、イトカワの表面のサンプルを採取した後、相次いでトラブルに見舞われたのは皆さんもご存知の通りです。最初に、姿勢制御を行うコマが二機故障しました。次に、姿勢制御に



使うガスジェットの燃料漏れが起こり、姿勢制御がほとんどできなくなりました。このとき我々は議論を重ね、イオンエンジンを姿勢制御に使うというアイデアで乗り切りました。こうして、何とか姿勢制御が行えるようになって四日後、今度は通信が途絶えて行方不明になってしまいました。

実は、世界でこれまで打ち上げられた小惑星探査機で、一度行方不明になったものが見つかった例はありませんでした。もうダメかと思いましたが、途絶した電波を受信しようとして、一人五時間交代で受信機を見続けました。そして、二ヶ月足らずで

市民活動団体との 交流タイム



会場では、滋賀で活動する24の市民活動団体が活動紹介や寄付募集などについて、ポスター展示やパンフレットの配布などを行いました。人権・福祉の活動、まちづくり活動、多文化共生の活動、環境保全やリサイクルの活動など、それぞれのスタッフが来場者と交流しました。

来場者には、活動に共感された団体へ、その気持ちを伝える共感メッセージを書くカードを3枚お渡しして、「共感ボックス」に投票していただきました。

共感メッセージには、「高齢化の時代(中略)環境の整備と老人を孤立させないため、いろんな人々との交流、絆の大切さを感じます」「大切な活動だと思います。私も一緒に汗したいと思います」「びわ湖のまわりのネットワーク化から世界へ!」「活動を初めて知りました。がんばってください」など、各団体にメッセージが寄せられました。

市民活動団体は寄せられ共感メッセージに励まされました。また、来場者は共感メッセージを書くことで、応援の気持ちを伝える喜びや「わたしにできること」について、考えていただく機会になったと思います。

地域で活動する市民活動との出会いが参加の一步につながることを願って、今後も市民活動と市民をつなぐフォーラムを開催したいと思います。



ポットと電波が届いて、見つかりました。また、帰還の半年前に、今度はイオンエンジンが故障しました。これはもう本当にダメかと思いき、絶望の記者会見を行ったのですが、あるスタッフが設計図にない工夫をしていたことが奏功し、息を吹き返しました。これは「奇跡のマジック」として華々しく報道されました。



こうした経験を通して一番印象的だったのは、チームが探査機への愛情を感じると、ものすごく強くなるということ。チームには、自分の意思で研究がしたいと入ってきた研究者と、企業からの命令で入ってきた人がいました。チームの中には、探査機にかけられる温度差があったのです。しかし、半年たち、一年たつうちに、それがなくなりまりました。それぞれ関わる一人ひとりがはやぶさを好きになり、好きになると簡単にはあきらめなくなりません。そういう関係になると、支え合いが出てきます。これはあらゆる活動に使えることだと思いますが、みんなで仕事をしている時、やっている仕事そのものが自分の情熱を注げるものだという確信が来たとき、そのチームはものすごく強くなる。これは、はやぶさを通して学んだことの一つです。

大切なのは貢献する立場に立ち、積極的に自分を役立てること

はやぶさは、百三十億円もかかりました。アメリカで同様の探査機を作るなら五百億円かかるようです。予算がない中で、できる限り自分たちで工夫し、小さな町工場百五十社くらいの技術を集めて作りしました。ピンチに接したとき、工夫と苦勞の過程からアイデアが生まれました。はやぶさが成功した原動力は「適度な貧乏」だと思っています。お金がないので工夫をし、頭を使いました。

二十世紀に、日本は経済的に大変豊かな国になりました。ところが、二十一世紀になり、世界の人は日本に来たとき、経済的に厳しくなっ

いるなど感じるようです。3・11の東日本大震災後、避難所で援助物資をきちんと並んで受け取ったり、被害の大きな町に譲る日本人の姿が世界に流れて、日本人の心が絶賛されるに至りました。この心を結びつけていくのは、これからの若い世代だと思います。そのために大切なことは、人のために貢献していただくという子どもたちを育てることです。みなさんが活動しているNPOでも、積極的に自分を役立てていくことをきています。

皆さんも、活動を通じて大いにそういう人を育てることを目指してほしいと思います。

市民活動への期待

社会変革を起こす力を培おう

2000年、アメリカのNPO取材して、市民の活動が社会を変えていく猛烈なエネルギーにカルチャーショックを覚えながら「NPOが日本を変える」という副題の報告書を出版した頃、日本がこうなるには30年はかかるだろうと、漠然とっていました。

それからほぼ半分の歳月が経ち、今、日本の市民活動の可能性を考えると、期待と不安相半ばです。現状から見て期待を膨らませるには次の二つのことが必要と思います。

一つは、市民活動が経済価値を創出する存在に育つことです。日本のNPOは「非営利の呪文」に囚われて発想の自由を失っています。経済価値を創出できないところに雇用は生まれず、その結果、次世代を育てられずに持続可能性を無くしています。経済価値を生み出すには例えば、社会貢献型マーケティングで企業と連携するような戦略が必要です。

もう一つは、社会変革に影響力を持つ規模にすることです。日本の市民活動は小さくまとまる傾向が強くてネットワークづくりが苦手。「全体の中で個を活かす」という発想が必要です。『世界を変える偉大なNPOの条件』で紹介されているNPOは受益者数や事業規模が圧倒的に大きい。日本のNPOも規模の拡大を目指すべきで、有効な手段はネットワーク(情報を含め)の拡充です。昨年結成した大津市NPOセクター会議はその試みのひとつです。



人と企業と NPOをつなぐ

HI・RO・BA



地域力を高める メッセージコーナー

NPO 法人大津NPOセンター
代表理事 森口行雄(もりぐち ゆきお)さん

世間よし ~企業の社会貢献~

企業に限らず、市民と行政、行政と企業などの、新しい市民協働(パートナーシップ)のカタチを紹介します。

SEKENYOSHI

株式会社水口スポーツセンター ウェル・ビ

〒528-0051 滋賀県甲賀市水口町北内貴77
TEL:0748-63-1200 FAX:0748-63-1288 ホームページ: <http://www.well-be.jp/>

お母さん達が元気で明るい地域をつくりたい ~企業とNPOが共に活動する子育て支援の取り組み~

水口スポーツセンター ウェル・ビ(以下、ウェル・ビ)は、旧水口町が資本金22%を出資して設立され、プール施設と乗馬クラブを運営する第3セクターである。この事業をすすめる上でウェル・ビが大切にしているのは子育て支援であり「お母さん達が元気で明るい地域をつくりたい」と語るのは常務取締役の中村美紀子さん。ウェル・ビを利用するお母さんが中心になって設立した子育て支援NPO「CHEERS STATION(チアーズステーション)」との連携の取り組みについて聞いた。



▲これから子育て、そして働くお母さん達に社員研修ばりの研修をするスタッフの中村さん。

CHEERS STATIONは、2003年、中村さんが孤立化するお母さんの子育ての悩み解消を目的にウェル・ビ内につくられた「子育てサークル」で自立活動をするお母さん達の有志グループからはじまっている。自立活動とは、ウェル・ビの掃除、コーチ、補助教材をつくるなどの仕事をお願いし、仕事を通じて子どもの成長に合わせた継続的な仲間づ

くりができる仕組みである。

2012年11月、さらにCHEERS STATIONのお母さん達が自主的なライフワークを見つけ活き活きと活動できるように外に向けた会員募集もはじめた。日頃の主な活動はお母さんがほっと一息つける居場所でありたいという思いから、毎週金曜日10:00~14:00の時間に手作り雑貨、スイーツ、パン、新鮮野菜の販売を行う「CHEERS SHOP」、未就園児の親子さんを対象に子育て相談会を行う「CHEERS ROOM」などである。ウェル・ビは活動拠点として施設を貸し出しながら共に子育て支援を行っている。

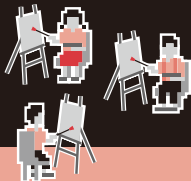
中村さんにこれからの展望を聞いた。「これからは、子どもの成長に応じたお母さんのライフワーク探しの支援として、施設利用者である高齢の方とお母さんとのつながりをつくり、昔ながらの知恵をうまく継承させて子育てを支えられるような仕組みをつくりたい。」と力を込めた。

(淡海ネットワークセンタースタッフ 膽吹 憲吾)



▲ウェル・ビ内にある有志のお母さんでつくる子育て支援NPO「チアーズステーション」の入り口。たくさんの手作り品が置いてあります。

教育



アート探検隊 ピカソ・スイッチ

設立●2012年
代表●中祖厚志(なかそ あつし)
メンバー●8名
連絡先丸東近江市八日市本町9-12
TEL: 0748-24-2355
E-mail: Picasso.Switch@gmail.com
ブログ: <http://picassoswitch.shiga-saku.net/>

めざせピカソ! ? 子どもたちとアートを繋ぐ 「ものづくり集団」。

みなさんは幼い頃、絵の具で色を混ぜたり、木の枝や石ころで「作品」を作るのに没頭したことはありませんか?

現代の子ども達にもそんな環境を提供してくれるのがこのグループ。これまで、冒険遊び場の



▲なんでもない公園が、色彩あふれる場に変身していきます。代表の中祖さんと一緒に。

壁画作成、公園に「ダンボールのまち」を出現させるイベントの開催、保育園・幼稚園でのアート体験授業などをしてきました。カラフルな作品と子ども達の笑顔がいっぱい!の活動写真からは、つくる喜びが伝わってきます。

団体メンバーは「ものづくり集団」。代表の中祖さんは八日市で小中高生を中心としたアトリエを主宰、八日市冒険遊び場の活動にも関わるなど、日ごろから子ども達とアートをつなぐ機会を提供されています。

今取り組んでいるのは「妖精の扉」という活動。八日市の公園や街中の「どこか」に「妖精の扉」がこっそり現れる…そうです。「この街には妖精が住んでいるらしい」という噂を聞いた子ども達は扉をみつけ「妖精さん、うちの近所に来てくれた!」と驚いたり喜んだり。見えないものをイメージする力が育まれます。今は八日市周辺での活動ですが、いろんな地域にひろげていければ、とおっしゃっています。



▲街角や公園に、さりげなくそっと「妖精の扉」は存在します。どんな妖精が住んでいるのかな?

「子ども達とアートを繋げ、表現する環境(場・機会)、社会が子供達のアート(表現)を楽しみ子供の個を尊重出来る環境作り。」ピカソ・スイッチの活動の主旨はこの一文にぎゅっと込め

られています。多くの子どもたちが、心のまま「描く楽しみ・つくる喜び」を持続してくれるといいですね。

(おうみネットサポーター 鹿田由香)

NPOのIT活用術!

NPO法人マイママ・セラピー
<http://www.mymama.jp/>

子育ての不安を解消するための
情報が盛りだくさん



0歳児の赤ちゃんを育児しているお母さんが、赤ちゃんと一緒に心と身体のふれあいを楽しむ教室を開催している「NPO法人マイママ・セラピー」。お母さんのための保健室、というキャッチフレーズの通り、ホームページではマイママ・セラピーが開催している教室をはじめ、さまざまなイベントの情報が提供されています。教室で、またホームページを通してママたちの悩みに応えてこられた実績を活かして、ホームページの「保健室便り」のコーナーでマイママの悩み相談や体験談などを公開しています。子育ての不安の解消について、わかりやすく安心感や温かさを感じさせる内容で、アクセスしやすく作られている、という点が評価されて、滋賀WEB大賞2012優秀賞を受賞しました。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

地域と人をつなぐ
~地域コーディネーターとして~

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

9期生 向久保恵美(むかいくぼ めぐみ)
グループ: 遊人里(ゆとり)

未来塾では自然を通じた子育て支援活動「あまのじゃくくらぶ」で活動していました。楽しいだけでなく、子どもも大人も学びの場となって欲しいとの思いで、下見をしたり何度も打ち合わせを重ねることで、多くの方との「人とのつながり」を感じた有意義な活動でした。残念ながら卒業後の活動は出来ていませんが、9期生の皆さんと活動できた事は大きな財産です。卒業後はこんぜ里山楽校で自然について1年間学んだ後、平成22年に湖南市教育研究所の前所長から文部科学省が推進する学校支援地域本部事業の地域コーディネーターにならないかと声をかけて頂きました。



未来塾は天津での活動でしたし、湖南市で保育に携わっていた私は前々から地元で子育て支援をしたいと思っていました。すぐ引き受けたいという思いの反面、自分の住んでいる地域での活動に不安もありましたが、「地域の環境や子ども達の環境が少しでも良くなるのなら」と思い切って引き受ける事にしました。初めてこの事業に取り組む小学校の先生方、地域の方、もちろん私自身も戸惑いながらのスタートでしたが、広報づくりやボランティア登録を呼びかけ、学校応援団を立ち上げることができました。今後も学校を核として地域の人と人をつなぐお手伝いできれば、と思っています。

講座

NPO ミニ講座・NPO 会計決算講座(基礎編)
NPO 会計決算講座(減価償却編)のご案内

NPOの設立・運営・会計についての各講座を毎月第2・3金曜日に開催します。

NPOミニ講座は、NPO法人の設立・運営について、またNPO決算講座は、NPOの会計の決算について説明します。ぜひご参加ください。

●NPOミニ講座.....13:30~14:30

●NPO会計決算講座(基礎編).....14:30~15:30

開催日:4月12日(金)、5月10日(金)、6月14日(金)

●NPO会計決算講座(減価償却編).....14:30~15:30

開催日:4月19日(金)、5月17日(金)、6月21日(金)

◇場所:淡海ネットワークセンター ふらっとルーム

◇参加費:無料

◇内容:ガイダンス、制度、手続きの説明など(参加される方のご希望に合わせます)質疑・相談など

◇お申込み:開催日の前日までに、電話・メール・FAX等により、お名前と参加者数を淡海ネットワークセンターまでお知らせください。

イベント

未来ファンドおうみ
助成事業2012成果発表会

2012年4月~2013年3月まで、未来ファンドおうみ助成事業2012の採択を受けた団体の成果発表会を行います。

おうみNPO活動基金助成団体3団体、びわこ市民活動応援基金助成団体4団体、びわ湖の日基金助成団体3団体が発表します。また、「淡海のつなぐ、ひろく、みらい」賞受賞団体の活動発表も行います。

助成申請をお考えの方、市民活動にご関心のある方、ぜひご来場ください。

◇日時:4月13日(土)午後

◇会場:県民交流センター(ピアザ淡海)207会議室

※詳細につきましては、当センターHPに掲載いたします。

募集

おうみ未来塾12期生
グループ活動中間発表会

おうみ未来塾は、地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」を目指して、滋賀県のような地域でまちづくりなど市民による活動を学びます。2年目にはグループ活動としてフィールドに入り、地域の課題に取り組みます。今回は、12期生のグループ活動報告会を行います。「地域プロデューサー」を目指すおうみ未来塾生の発表から地域づくりや市民活動を進めるヒントを見つけに来て下さい。

◇日時:6月9日(日)午後

◇場所:コラボしが21 中会議室

◇報告グループ名:おうみふるさと物語プロジェクト/8meets/古々屋/鹿深deござれ!

※詳細につきましては当センターHPに掲載いたします。

イベント

メールマガジン
「おうみネット e~マガジン」
登録案内

淡海ネットワークセンターでは、市民活動・NPOに関する最新の情報をメールマガジンでお届けしています。登録は無料です。

【こんな情報をお届けします!】

淡海ネットワークセンター事業のご案内、市民活動情報、助成金情報、スタッフ・会員・ボランティア募集情報、お知らせ・お役立ち情報。

◇お申し込み:氏名、所属、登録用メールアドレスを明記の上、淡海ネットワークセンターまでご連絡ください。

イベント

協働サロン 地域課題をNPOらしい
ビジネスで解決するには!~事業計画の事例から組み立て方を学ぼう~

市民が地域の課題を解決するためにビジネスの手法を使って、持続できる取り組みをめざす市民活動団体も多くなっています。地域や社会において、ビジネスの手法を使って課題解決をめざすのであれば、始める前の準備として、組織内でミッションを共有し、組織の弱みや強みを知り、地域でのニーズや市場を調査するなど検討と細かな計画づくりが必要となります。これらの必要性を事例から組み立てを学びます。

◇日時:6月13日(木)午後

◇場所:ピアザ淡海206会議室

◇参加費:500円

◇講師:日本政策金融公庫より

編集後記

代表の中祖さんご夫妻のお話しをうかがっていたら、私も何かを作ってみたくなりました。まずはこっそり「自宅用妖精の扉」かな?取材を通して「子どもが自由に創作できる環境はもちろん、その表現を認め尊重できる環境(主に大人側)も大切だ」と気づかされました。(おうみネットサポーター 鹿田 由香)

今回、取材で株式会社水口スポーツセンター ウェル・ビにはじめて行かせていただきました。まず、第一印象として、子どもの声がいっぱい!なんと利用者の方が楽しそうなんだろう!と素直に思った次第です。こんな会社が地域にあると絶対元気になる。こんな地域に住みたい!と素直に思った取材でした。

(淡海ネットワークセンター スタッフ 膽吹 憲吾)

淡海
おうみネット 85

●2013 春号●



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801

大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

■TEL 077-524-8440

■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com

■E-mail:office@ohmi-net.com

開館時間/9:00~17:00

休館日/月曜日・祝日

●情報交流紙「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内大学、県内NPO法人、県内市民活動センター、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県民情報室など

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌
「おうみネット」 掲載広告募集中!

- ★発行部数10,000部
- ★県内外の配布先約2,000カ所
- ★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください!



おたがいさまがつながり、活きる。



未来ファンド 個人の気持ち、企業のCSR

様々な「志」を地域に支える市民活動へ、しっかりつなぎます。

寄付をお考えの方、詳しい内容を知りたい方は、淡海ネットワークセンターにお気軽にお問い合わせください。